

平成 30 年 6 月 30 日  
バンコク産業情報センター  
鈴木 太郎

タイにおける日本産食品の広がりについて  
一般調査報告書

タイは、進出する日系企業数が、中国、アメリカに次いで多く、在留届出邦人数が約 7 万人とアセアン最大となっており、日本人等をターゲットにした日本食レストランやスーパーなどが大変多くあります。日本人の多く住むバンコクのスクンビット地区には、居酒屋からラーメン店、お蕎麦屋など様々なお店が特に集中しており、愛知県にゆかりのある、手羽先で有名な「世界の山ちゃん」や蕎麦の「サガミ」、カレーの「COCO ICHIBAN」などもタイへ進出しています。

(日本産食品販売スーパー)



(日本食レストラン)



日本食レストランの数は、タイ全体としては、依然として増加傾向にありますが、バンコクでは競争が激しくなっており、進出とともに撤退するお店も多くなっています。

また、タイ人の訪日旅行者数の増加や健康志向の高まりなどから、日本産食品への需要も高まっており、2017 年の日本から農林水産物輸出金額は、前年比で約 20% 増加し約 391 億円と、世界第 7 位となっています。日本産食品が入手し易いことから、アセアン諸国等で生活している日本人が、バンコクに日本産食品等を買出しに来ることもあります。

## タイにおける日本食レストラン数の推移

- ・今年度の日本食レストラン数は増加したものの、増加率は鈍化
- ・（前回調査比） バンコク0.8%減、 地方7.8%増、 合計2.2%増

	バンコク	地方	全国計	純増数(増加率)
2007年3月(2006年度)	555	190	745	—
2008年2月(2007年度)	625	215	840	95(12.8%)
2009年3月(2008年度)	729	355	1,084	244(29.0%)
2010年2月(2009年度)	913	394	1,307	223(21.5%)
2012年6月(2012年度)	1,128	548	1,676	369(28.2%)
2013年4月(2013年度)	1,241	565	1,806	130(7.8%)
2014年6月(2014年度)	1,553	721	2,274	468(25.9%)
2015年6月(2015年度)	1,728	891	2,619	345(15.2%)
2016年7月(2016年度)	1,753	960	2,713	94(3.6%)
2017年7月(2017年度)	1,739 (新335 減349)	1,035 (新189 減84)	2,774 (新904 減443)	61(2.2%)

出所:ジェトロ・バンコク事務所及びJROタイ支部による共同調査

さて、5月29日からタイ最大級の総合食品見本市「THAI FEX 2018」がバンコク近郊の展示場「IMPACT」で開催されました。日本からも多くの食品関連企業の方が出展され、愛知県からは、抹茶の「南山園」や、お味噌の「マルサンアイ」がジェトロの設置する JAPAN パビリオンに出展されていました。

タイは物流のハブとして商品買い付けの場にもなっており、この展示会には、46 か国から約 2200 社が出展し、近隣諸国からも多くのバイヤーが訪れ、大変な賑わいとなっていました。

(THAIFEX 2018)



(JAPAN PAVILION)



今回の見本市で、ジェトロバンコクは、在タイの日系企業の2社と日本産食材の普及に関する MOU を締結しました。そのうちの1社である JVALUE 社は、日本人の多く住むスクンビットのトンローエリアに日本産食材の生鮮卸売市場「トンロー市場」を、今年の6月に開設しました。

輸入した食材を日本レストランやホテルなどへ個別に納めるのではなく、各業者の方がこの市場に来て購入する試みで、今回、JVALUE 社の元田健太郎さんに、設立の背景や、市場の概要についてお話を伺いました。

Q 「トンロー日本市場」を開設した背景を教えてください。

日本の市場が縮小していく中、安全で美味しい日本産食品をアジアにさらに普及するための方法を、数年前から検討してきました。

多くの日本食レストランがあるバンコクに、日本の卸売市場を作り、新鮮で美味しい日本食材をタイに住む多くの人々に提供したいと考えています。

JVALUE は、タイの日系物流企業 JALUX ASIA 社と、築地の鮮魚仲卸亀本商店、青果卸長峰商店、名古屋の精肉店杉本食肉産業との合弁企業で、現地のレストランやホテル、卸・小売事業者に、この市場で販売しようとする試みです。

(日本生鮮卸売市場)



(JVALUE 社の元田さん)



Q どのような商品を取り揃えていますか。

鮮魚、牛肉、果物、野菜といった素晴らしい日本産食品を扱っている各社さんとともに JVALU を立ち上げており、鮮魚は朝築地で仕入れたものが翌朝にはこの市場に並んでいます。仕入れは毎週数回日本から直送しており、新鮮なまぐろ、金目鯛、のどぐろ、タコなどが購入できます。

豚肉や鳥肉はタイでも新鮮なものが手に入るのですが、市場では品質の高い日本の牛肉を販売しています。杉本食肉産業さんが名古屋の会社なので三河牛はじめ、松坂牛など質の高いお肉を仕入れています。野菜や果物も豊富で、高級レストラン向けに、食用菊やゆり根などもとり揃えています。

(牛肉のブース)



(金目鯛など日本からの直送鮮魚)



(野菜コーナー)



(生わさび、食用菊など)



Q レストランやホテルなどの卸売りだけですか。

卸売を基本としており、レストランなど業者向けが主な対象ですが、午後からは一般の方への小売りも行っています。会員制度になっており、一般の方は年会費として200バーツ支払っていただければ会員となることが出来、これまでより、2~3割ほど安く購入することが出来ます。

Q 今後の展開について教えてください。

味噌などの加工食品やお米、お酒など品揃えをさらに拡大するとともに、催事スペースなどもありますので、自治体フェアなどのイベントなどの企画や、イートインコーナーの設置などしていきたいと考えています。

タイでは、ネットで日本産食材を各家庭に配送するサービスもあり、日本産食品の販売方法や品揃えは進化し広がりを見せています。バンコク産業情報センターでは、こうしたタイの最近の情報等も引き続きお届けいたします。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。  
バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。  
本情報の採否は読者の判断で行ってください。  
また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。